シーズ名	
氏名・所属・役職	山祐嗣・文学研究院・教授

＜概要＞

人間が行なう推論が、進化的および文化的にどのような意味で適応的なのかを研究している。最近は、日本人を含めた東洋人が、規則に基づいた推論を行ないにくいこと、その本質は、素朴弁証法にあることなどを実証し、それがどのような意味で東洋の文化に適応的なのかを論じている。そして、日本人が論理的ではないという通説に反論をしている。また、東洋人は、西洋人と比較して、背景的に共有している情報(コンテクスト)により依存したコミュニケーションを行っていると考えられている。図は、コンテクストを共有しないコミュニケーションの失敗例である。そして、これが、東洋人が、コンテクストを共有しにくい異文化コミュニケーションに慣れてない可能性があることを指摘している。

＜アピールポイント＞

理論面では、西洋人と東洋人の思考の違いがどんな点で文化適応しているかという点で学界に貢献している。東洋人の、暗黙の共有知識に頼る思考は、コミュニケーションスタイルにも現われていて、「よろしくお願いします」だけて事足りるコミュニケーションがその代表である。グローバル化の中で、日本人をはじめとする東洋人が、西洋人とコミュニケーションをする上で、どのようなことが必要なのかというスキルを開発するプログラム等に貢献できる。

＜利用・用途・応用分野＞

日本人をはじめとする東洋人が、西洋人とコミュニケーションをする上で、どのようなことが必要なのかというスキルを開発するプログラム等に貢献できる。具体的には、マインドフルコミュニケーションと呼ばれる、暗黙の共有知識を意識することを重視するプログラムである。

＜関連する知的財産権＞

とくになし。

＜関連するURL＞

とくになし。

＜他分野に求めるニーズ＞

コンテクストによる文化差は、異文化が出会う状況でコンテクストに依存しないコミュニケーションスタイルが規範とされやすくなると説明される。歴史学、文化人類学などからの知見と合わせて、総合的な人文科学理論に発展することが期待できる。

キーワード	推論、比較文化研究、生態学的適応論、素朴弁証法、コミュニケーション